

第二回 食料・農林水産業領域に係る国際標準戦略検討会
議事要旨

日時：2026年3月2日（月）10:00~12:00

開催場所：農林水産省 共用第6会議室、Teams

出席者：※以下敬称略

※オンライン参加

委員

出田 宏（いずた ひろし） 株式会社食品信頼開発研究所 代表取締役

江藤 学（えとう まなぶ） 国立大学法人 一橋大学
イノベーション研究センター 特任教授

小倉 千沙（おぐら ちさ） 株式会社メロス 代表取締役
（欠席）

坪山 宜代（つばやま のぶよ） 防衛装備庁防衛イノベーション科学技術研究所
プログラムマネージャー（災害食国際規格委員会
委員長）

元林 浩太（もとばやし こうた） 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合
研究機構 国際標準化推進室室長

谷貝 雄三（やがい ゆうぞう） 内閣府知的財産戦略推進事務局企画官

（敬称略・50音順）

オブザーバー

栗原 秀夫（くりばら ひでお） 独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
規格調査部国際規格調査課 課長

柴田 章※（しばた あきら） 一般財団法人 日本規格協会
スタンダード・コンサルティングセンター所長

森下 美奈子（もりした みなこ） 一般財団法人 日本規格協会
スタンダード・コンサルティングセンター
農林規格開発課長

島崎 真人（しまざき まさと） 一般社団法人 日本農林規格協会 専務理事

宮田 理恵子※（みやた りえこ） 一般社団法人 日本農林規格協会

内閣府 知的財産戦略推進事務局

農林水産省 輸出・国際局 輸出企画課※
農林水産省 大臣官房政策課 技術政策室
農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 新事業・国際グループ※
農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究統括官室
農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究開発官室※

(敬称略・50音順)

事務局

農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部食品製造課基準認証室
株式会社野村総合研究所
Nomura Research Institute Singapore Pte. Ltd.

<配布資料>

- ・議事次第
- ・資料1 出席者名簿
- ・資料2 検討内容
- ・資料3 参考資料

1. 意見交換

1.1) 食料・農林水産業の国際標準戦略素案（「はじめに」について）

- 「はじめに」全体について
 - 本戦略を公表するにあたり、国内事情に偏らず諸外国の目線を意識し、自国の利益だけでなく国際的な課題に対応する手段であるというスタンスを出した方が良いと考える。（谷貝）
 - 標準化は事業目的を達成するためのツールであるため、事業戦略からのバックキャストで標準化を考える思考プロセスをどこかに書き込んだ方が良いと思う。（谷貝）
 - 経済安全保障やサプライチェーン強靱化の観点からも、標準化をしっかりと進めなければならない旨を入れると良いと考える。（谷貝）
 - 戦略の公開に関して、社会課題解決に貢献するものでなければ国際的な要求は通りにくいいため、日本製品の輸出拡大は副産物という立ち位置で示す方が良いと思う。（オブザーバー）

- 「課題への対応が求められている」(p.1 の 11 行目)ではなく「課題の解決」や「改善」など前向きな言葉を入れると全体の力強さが出ると思う。(坪山)
- 「国際的な規格はあるものの日本固有の食品が適用範囲外になるため新たな規格を作成するのか」という記述 (p.2 の 19 行目)は直後の「日本に特化した日本版の認証を作成し」という記載と内容が重複しているように感じるため、適切な表現へ修正してほしい。(オブザーバー)
- 日本固有の食品が適用範囲外になる部分 (p.2 の 21 行目)について、「新たな規格を作成する目的」が分かりにくいいため、「適用外を回避するため」または「適用外になった場合に優位性を示すため」等、明確にすると皆に伝わると思う。(坪山)
- 図表 1 (p.3) について
 - BS や DIN など産業規格と並んで JAS があることに違和感がある。JIS ではなく JAS を入れている意図の確認をお願いしたい。(元林)
 - JIS の主務大臣には農林水産省も含まれるため、「JIS/JAS」と記載しても問題ないと思う。(江藤)
 - 下の文章について、認証機関が策定しているものと団体規格の差がわかりづらい。(小倉)
- 適合性評価に関する記載 (p.3 の 3 行目) について
 - 「この規格に基づいて正しく試験検査を行い、規格への適合を証明する適合性評価を合わせて」と記載すると正確になる。(江藤)
 - 国際標準化機関として ISO と Codex のみを挙げ、GHG プロトコル等を分けて説明していることに違和感があり、「国際イニシアチブ」等に別建てしてはどうか。(小倉)
- 「社会課題の解決と市場創出を実現することが求められている」という第三者的な表現 (p.3 の 17 行目)ではなく、国際標準化が社会課題解決と市場創出を促すものであると役割を言い切るとメッセージが伝わりやすくなると思う。(坪山)

1.2) 食料・農林水産業の国際標準戦略素案 (「第一章」について)

- 図表 2 (p.6) について、生産性向上だけでなく「基盤整備」「インフラ整備」といった要素を社会課題解決の箇所に入れ、市場創出と関連付ける整理をすると、社会課題解決と市場創出の両方に貢献することがより伝わると思う。災害食やコールドチェーン物流の ISO 化などは、基盤整備を通じた市場創出や社会課題解決につながるためである。(出田)

- 災害食の箇所 (p.7 の 7 行目) は「災害先進国」よりも「災害多発国」や「防災先進国」とする方が本来の意味が伝わると思う。また、日本提案・日本主導で行われている事例があることを明記して可視化すると良いと思う。(坪山)

1.2) 食料・農林水産業の国際標準戦略素案 (「第二章」について)

- 「第二章」全体について
 - 水産業や林業、畜産業についての言及が少ないため、なぜ食料・農業が重点領域なのか (日本の技術が強い、市場規模等) を記載し、ゆくゆくは他分野へも広げていく方向性がわかるように記載すると良い。(谷貝)
 - 「第二章」の冒頭で、まず重点分野である食料・農業の分野から始める旨の記述があると良いと思う。(江藤)
- 災害食の項目立て (p.9) は現在の形で問題ない。新市場創出や社会課題解決など様々な形で活用できるため、可視化されること自体に意味があると感じた。(坪山)
- 日本の強み (p.9 の 13 行目) について
 - 質の高さや和食の伝統的な部分だけでなく、コールドチェーンや環境配慮技術などの多様な食品やハイテク技術があるという強みも表現できると良い。(小倉)
 - 和食という伝統的な食文化だけでなく、多様な食品やハイテクと伝統の協調など、もう少し広く言える書き方ができると良いと思う。(江藤)
- 「ブランド化や差別化に向けた標準化はほとんど実施されておらず」という箇所 (p.9 の 18 行目) について、国内では差別化に向けた標準化 (JAS 等) が多く行われているため、「国際標準化が実施されていない」か「標準化の活用」といった表現に改め、誤解を避けるべきだと思う。(出田)
- 「現地の多様なメーカーの機器との互換性」(p.11 の 9 行目) について、データの互換性なのか接続の互換性なのかなどを明確にするため、「データの互換性」と言葉を補うことも考えられるが、最初に互換性の全体像を示したい意図があるなら現状のまま問題ない。(元林)

1.3) 食料・農林水産業の国際標準戦略素案 (「第三章」について)

- 「第三章」全体について
 - 「(民間であっても) 自ら規格を作ることができる」ということが「第三章」まで読み進めないと記載されていないため、「はじめに」のあたりにも入れるとより良いと思う。また、Codex 規格に関しては自ら作れるのか疑問である。そのため、

「ISO など（民間であっても）自ら作れる規格」といった表現にすると良い。（坪山）

- 安全・安心の確保は農林水産省が取り組むべきことであり、民間はビジネスとして活用する程度が望ましいため、社会課題解決の中に含まれるという整理で良いと思う。（江藤）
- 「規制・要求事項」（p.14 の 9 行目）は並列ではなく、「規制と民間ベースの要求事項」と表現すると良い。（江藤）
- 国際標準の活用に向けた課題（p.14 の 15 行目）について、標準化人材が評価されづらいという課題についても追記すると、改善が見込めると思う。（坪山）
- 産学官金（p.14 の 30 行目）の「金」について、金融機関や投資家が標準化活動を評価してコーポレートファイナンスやプロジェクトファイナンスの観点で活用する旨を追加すると良いと思う。（谷貝）
- 図表 3（p.15）について
 - 適合性評価機関への支援も必要であるため、ビジネス側の横にもう一つ歯車を作り、適合性評価機関として「適合性評価スキームの開発」や「第三者適合性評価の提供」といった役割を入れるべきだと考える。（出田）
 - 歯車の記載については、ビジネスの下に政府、適合性評価機関、大学・研究機関、金融機関の 4 つを並べるのが折衷案であると考え。（江藤）
 - 産官学が連携して同等に進めるイメージであるため、歯車の大きさも同じにすべきだと感じた。（オブザーバー）
 - ビジネスに使いたい人が主体となるためビジネス側の歯車が大きいことには賛成である。適合性評価機関を時系列として独立させるのは良いと思う。（オブザーバー）
- 人材育成（p.15 の 13～14 行目）について
 - せっかく育成した人材が人事異動で活用しきれない問題があるため、「人材を維持・活用する」といった視点を記載すると良いと思う。（元林）
 - 海外で標準を作り各国の政府に働きかけるロビイストの人材育成も重要であるため、可能であれば含めていただきたい。（谷貝）
- 「経営層を含めて育成していく」という表現（p.15 の 17 行目）は違和感があるため、「認識を深めてもらう」などの表現が良いと思う。（元林）

- 「国際会議で戦略を立てるのでは遅い」という指摘 (p.15 の 20 行目) は、事前に戦略を立てて実行することが重要という点が伝わればよいということである。(オブザーバー)
- 「両社が必要に応じてマッチングできるような」という記載 (p.16 の 4 行目) について、業界各社から人材を出してもらい組織化を促進・支援するため、「自律的な組織形成と、」という文言に変更してはいかがか。(小倉)
- 「認証等の審査を通じた海外流出」(p.17 の 1 行目) について
 - この表現は第三者認証制度に対する誤解や否定と受け取られる可能性があるため、「監査や検査を通じた流出懸念」とするか、「新たな国際標準戦略」の表現に合わせた方が誤解を生まないと思う。(出田)
 - 審査を通じた流出リスクという表記は言葉として強すぎると思う。(江藤)
- 最後のまとめ (p.17 の 21 行目) について
 - 主語が明示されていないが、推進していく主体が農林水産省であるものと理解した。(元林)
 - 「官民が連携して能動的に国際的なルール形成に関与し」という部分を「ルール形成を主導し」や「ルール形成をリードし」に置き換えると、自ら引っ張っていくメッセージが伝わると思う。(坪山)

以上